

第 6 章 観光施設等に対する海拔表示の設置

第6章 観光施設等に対する海拔表示の設置

6-1 海拔表示ガイドライン

沖縄県防災危機管理課は、住民の避難意識の向上および災害発生時の避難体制の強化を目的とし、全県において統一的なデザインとして海拔表示等に係るガイドラインを平成23年9月に作成している。避難誘導に関する効果の検証及び地域支援の一環として、観光危機管理体制の強化や避難訓練時に使用することを視野に入れ、このガイドラインに基づく海拔表示看板の設置を希望する観光関連施設を公募・選定して設置を行った。

なお、海拔表示ガイドラインは以下の通り。※海拔は小数点以下四捨五入

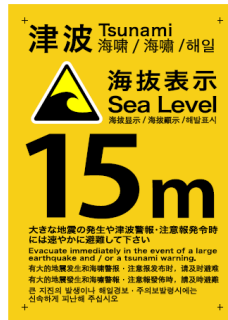
※表示単位は、1m毎とする

区分	色	図案
5m以下	下色を赤、文字は白抜き	海拔表示 図1
6m以上19m以下	下色を黄色、文字は黒	海拔表示 図2
20m以上	下色を濃い青色、文字は白抜き	海拔表示 図3

海拔表示 図1



海拔表示 図2



海拔表示 図3



6-2 設置箇所

海拔表示の設置箇所は以下の通り。

No	施設名称	設置数	No	施設名称	設置数
1	カフーリゾートフチャク・コンド・ホテル	59	16	ビーチホテルサンシャイン	8
2	ANAインターコンチネンタル万座ビーチリゾート	32	17	てんぷす那覇ビル	8
3	ホテルマハイナウエルネスリゾートオキナワ	11	18	ザ・ビーチタワー沖縄	68
4	ホテルゆがふいんBISE	4	19	伊平屋村 (6施設)	51
5	ホテルゆがふいんおきなわ	32	20	友愛会豊見城中央病院付属健康管理センター	6
6	ホテル日航アリビラ	66	21	ホテルグランビュウガーデン 沖縄	22
7	株式会社沖縄黒糖 (観光施設)	10	22	ホテルオーシャン	24
8	体験王国 むら咲むら	10	23	Gala青い海	8
9	海の邦 TOYA (都屋)	8	24	東村 (※うち民泊54件、団体5件)	73
10	古堅モータース	2			
11	軽井沢倶楽部ホテル石垣島	11			
12	宮古島東急リゾート	29			
13	ザ・ナハテラス	4			
14	ホテルプリーズベイマリーナ	74			
15	イオン北谷ショッピングセンター	24			
				計	644



海拔表示版設置の例

6-3 海拔表示の有効性検証

(1) 設置方針に関する事例

- ・ 域内全ての民泊施設に設置を義務付けた
- ・ 海拔が低い箇所に赤看板（海拔 5m 以下）を設置することにより、来訪者の不安を煽る懸念もあったが、むしろ自分の位置と海拔を正しく理解して頂くために設置を徹底した

(2) 海拔表示板設置の効果

- ・ 避難ルート上のわかりやすい箇所（分岐点など）に設置できている
- ・ 非常階段など、施設的美観を損ねず、且つ避難時に有効な場所に設置できている

- ・お客様にとって、施設内の「赤看板（海拔 5m 以下）」から「青看板（海拔 20m 以上）」の大体の場所やルートが自然に理解できるので、事前に安心感を与えられる。また、海拔が低いエリアをあえて示すことにより、お客様の防災への意識を高めることができる
- ・施設スタッフが自施設各所の海拔を自然に理解することとなり、スタッフの防災意識を高めることができた
- ・民泊受入施設において、子供たちに到着後すぐに施設の海拔と、地震・津波発生時の避難場所を案内することを徹底するようになった。子供たち本人の防災意識を高められると同時に、そのご家族に対しても“この地域は防災への取組みを強化している”というメッセージを伝えることができています
- ・広域の住宅街に海拔表示板を設置することにより、地域に居住する住民の防災に対する意識が高まった
- ・海に近い施設において、“海が近いからなんとなく不安”と感ずるお客様に対して、海拔の高さを具体的に表示することによって安心感を与えることができる

(3) 課題および今後の展開

① 課題

i) 設置方針に関すること

- ◆ 本事業においては、各施設の主体性を重視して海拔表示板を設置したため、施設の方針によって設置されている箇所が異なる。お客様にとっては、“A 施設にはフロントに表示があったのに、B 施設にはない”という設置方針の不統一により、お客様に不安を感じさせる可能性がある
- ◆ 宿泊施設等、高層の建物については、建物の構造上可能であれば、屋上を避難場所にすることを推奨するなど「望ましい避難場所のあり方や場所(の例)」に関する条例や公的見解があると、施設内での避難場所・設備の充実に向けた対策の検討基準が明確になると考えられる。
- ◆ 非常階段を使用して上階に避難することを想定した場合、施設の構造によっては非常階段から客室などのお客様のプライベートスペースが見えてしまう場合がある。プライバシー保護の問題と防災対策の問題はそれぞれに重要であるが、いざという時に人命を守ることを優先する必要がある、基準の制定が求められる。

ii) デザインに関すること

- ◆ 海外から沖縄を含む日本の各地を訪れるお客様や国内のさまざまな地域を訪れる機会のある旅行者の目線に立つと、より直感的にサインの内容を認識することを可能とするため、日本国内で共通したルールおよびデザインで海拔や防災に関わる各種サインが表示されていることが望ましい。

iii) 今後の設置推進に関すること

- ◆ 観光に関わる民間施設への海拔表示板設置は、本事業を通じて一定程度の成

果を挙げたものの、観光危機管理モデル事業終了後（平成 26 年度以降）も、市町村の協力を得て引き続き海拔の測量および看板の設置が推進できるような仕組みを整えておく必要がある。

- ◆ 施設を詳しく知らないお客様に可能な限り最短距離で避難していただくためには、施設内の人が集まる場所から避難場所までのルートを矢印などで示す誘導サインの設置は不可欠と考えられる

②今後の方針

i) 海拔表示板の設置推奨箇所の検討および周知

お客様の理解促進と不安軽減、および海拔表示設置を希望する個々の民間施設における設置方針を可能な限り統一するため、下記の通り、海拔表示設置推奨箇所を沖縄県防災担当課との調整のうえで定め、事業者および県内市町村へ周知する。

※設置推奨箇所（案）

設置方針	設置箇所(例)
①多くの人の目に触れる場所	<ul style="list-style-type: none"> ・施設案内板やマップのそば ・非常階段(※階段で避難する場合) ・想定避難ルートの分岐点等 ・ロビーや入口等、人が集まる広い場所
②沖縄県の想定で、浸水が予想されるエリア内の観光関連施設(注意喚起のため)	<ul style="list-style-type: none"> ・地面の高さがわかる場所 ・施設内の避難ルート上(①に準ずる)
③海や川に至近の施設 (※●メートル以内、などの定めが必要)	<ul style="list-style-type: none"> ・5m 以下の場所(注意喚起のため) ・避難ルート沿い

ii) 民間施設内の避難誘導サインのデザイン検討および設置推進

上記 i) ととも連動するが、施設内を迅速に避難いただくためには、効率的かつ安全な避難の方向（順路）を示す誘導サインの設置は不可欠であると考えられる。避難場所への道を示す簡潔なピクトグラムを中心とした多言語表記の誘導サインデザインを防災担当課とともに検討し、すでに海拔表示板を設置している民間事業者を中心に設置を推進する。

iii) 市町村との連携による設置促進

これまで、本事業では民間施設を対象として海拔表示板を設置し、市町村は道路など公的な場所を中心に設置をすすめてきた。今後、本事業の終了後も引き続き民間事業者に対しての設置を推進していくための体制を整理しておくことが望ましい。

